

佳作

Five years later

福島県磐城緑蔭中学校

2年 鈴木 泰耀

「過去じゃなくて自分の未来と向き合え」という言葉を聞いたことがある。確かに過去にばかりとらわれてはいけけないのはわかる。だが、「未来と向き合う」というのは一体どういうことなのだろうか。人間は「起きてしまった出来事」には向き合うことができると僕は思う。それが「反省」や「後悔」という形で表れているからだ。しかし、「まだ起きていない出来事」に対してはどのようにして向き合えばいいのだろうか。まだ起きていないから、向き合いようがないのではないか？

ここまで「未来と向き合う」ことについていろいろと考えてきた。そこで、5年後の自分に手紙を書いてみることにした。未来の自分に手紙を書くことで、「未来と向き合う」ことについて何か新たな発見があるかもしれないからだ。

～これは今の僕が5年後の僕に送る、最初で最後の言葉たちだ～

5年後の僕へ

夏の暑さもだんだんとおさまり、秋の気配を少し感じるこの季節に、いかがお過ごしでしょうか。大学受験が終わって初めての夏休み、満喫できているだろうか。僕はいま、最後まで残しておいた一番楽しい課題をやっているところだ。

大学生活は楽しく過ごせているのだろうか。新しい友達はできたのだろうか。まさか一人さびしく予備校で勉強などしていないだろうね。僕はいま塾で高校2年生の数学と、高校卒業レベルの英語を勉強している。数検と英検両方準一級まで取得できていたら、僕はとても嬉しい。今している努力が絶対に実とは限らない。でも、君なら僕の努力が実ったかどうか知っているだろう。たとえ実っていなかったとしても、新たな目標を見つけて頑張ってほしい。僕もいまでできるだけ努力をするつもりだ。お互いに頑張ろう！

君が今どんな趣味に熱中しているのか、僕はとても知りたい。音楽・芸術・運動・ゲームの4つのうちのどれかなんじゃないかと僕は個人的には思っている。これが正解かどうかは、君にしか分からない。当たっているといいな。僕は今、音楽を聴くこととゲームをすることに熱中している。それから、外でジョギングすることにも熱中している。疲れた日の夜にイヤホンを取り出して聴く曲の数々。あれは人をどうにかさせるんじゃないかと思う。ジョギングも同じだ。一人で朝早く起きて朝日をながめながら走る。これ以上に爽快なことはなかなか見つからないだろう。早朝の涼しい風が髪を、頬を、体全体を心地よ

く通り抜けていく。最高だ。ポエムのように自分の至福を語ってしまったが、それはきっと君にもあるはずだ。ぜひ一度、今でなくてもいいから聞かせてほしい。いつかそれが聞けるまで、楽しみに待っているとしよう。趣味も一緒に頑張ろう！

ここまで君に向けてたくさんのメッセージを書いてきた。本当はもっと伝えたいことがたくさんあるのだが、今はここまでしておこうと思う。この手紙を書いたことで、僕は君に会う、いや君になるのがとても楽しみになってきた。こういうことをするのもたまにはいいかもしれない。よければお返事の手紙を書いて、僕に見せてほしい。今から5年後、君からの手紙を見るまでずっと楽しみに待っているよ。

それでは、今日の日ばさようなら。5年後のまた会う日まで、どうかお元気で！

14歳の僕より

というわけで、5年後の自分に手紙を書いてメッセージを残してみた。そして先ほど書いた「未来と向き合う」ことについて、いくつか分かったことがある。

まず「未来と向き合う」ということは「未来に希望を抱く」ということなのではないかということだ。僕は手紙の中で「自分の今」と「未来の自分への希望」の大きく二つしか書いていないことに気付いた。もしかしたら「起きてしまったこと」を反省したり振り返ったりして過去と向き合うように、「まだ起きていないこと」に希望を抱いて未来に向き合うのかもしれないと思ったからだ。

次に「今の自分」と「5年後の自分」が同じ人間のはずなのに別人のように感じたことだ。過去の自分を振り返るときにも「なぜあのときこんなことしちゃったんだろう」のように過去の自分を主観的ではなく客観的に見ている。そう考えると人間は「過去の自分」を客観的に見て振り返り、「未来の新しい自分」に向けて「今の自分」を変えていくということをしているのではないか。

まさか未来の自分に手紙を書くことで、こんな発見ができるとは思わなかった。僕はこれからも努力し続けて変わっていく。今の14歳の自分に顔向けできる自分になろう！